

国語 第2学年 むかし話をしょうかいしよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：昔話の人物の行動を場面の様子から想像し、話のおもしろさを紹介する。現代の暮らしとは異なる語句を確かめ、なぜその行動をしたのかを前後の出来事と結び付ける。C(1)エの学習として、昔話紹介カード。印象に残った行動、想像した様子、昔話らしい表現や出来事、紹介する本の題名を書く。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：昔話紹介カードを残す。印象に残った行動、想像した様子、昔話らしい表現や出来事、紹介する本の題名を書く。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：現代の道具や習慣で考えて行動を否定する。よいことをすれば得をするという教訓だけにしない。これについて、暮らしの語句を教師が図や辞書で説明し、その後で本文の行動を読む。昔話の類話を比較するときは、同じ話の全てが同一表現だと思わず、読んだ本の題名を記録する。〔知識及び技能〕(3)ア・〔知識及び技能〕(3)エとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この場面で人物がしたことから、どんな様子や思いを想像しましたか。前の出来事とつながるところはありますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：昔話紹介カードは紙に記録できる。印象に残った行動、想像した様子、昔話らしい表現や出来事、紹介する本の題名を書く。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：昔話の教訓を評価するのか。

返し：C(1)エと〔知識及び技能〕(3)ア・エに沿い、言葉から行動を想像し昔話に親しむ姿を見る。教訓の暗記や特定の感想への同意は評価しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この場面で人物がしたことから、どんな様子や思いを想像しましたか。前の出来事とつながるところはありますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

